

道徳科 家庭における学習の留意事項 ～コロナ感染拡大防止に向けて～

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、道徳科の学習を家庭で実施し、学校で評価を行う場合の留意事項として次のことが考えられます。

- ◇道徳科の目標を意識した学習でなければならない。
- ◇道徳科の特質に応じた学習状況を把握できるものでなければならない。
 - (1)多面的・多角的に考えているか（考えて記述しているか）
 - (2)自分事として考えているか（考えて記述しているか）

【家庭で、道徳科の学習を成立させるための諸条件（例）】

①**教科書**・・・児童生徒が教材を理解できることが前提条件。教師が適切に選択する必要がある。

	学校で指導することが望ましい学習（例）	家庭で進めることが可能な学習（例）
内容項目	<ul style="list-style-type: none">○学校の教育目標に直結した重点内容項目○捉え方が難解な内容項目 （よりよく生きる喜び、畏敬の念、真理の探究 等）○学校の重点目標に関連のあるテーマ （いじめ防止、生命の尊さ、差別を許さない 等）	<ul style="list-style-type: none">○家庭の支援が期待できそうな内容項目 （家族愛、礼儀、勤労、伝統文化等）○前年度に重点的に指導した内容項目で、家庭学習でも十分に考えることが期待できるもの。○自分の生活に身近なテーマ （美しい自然、大切なふるさと 等）
教材の様態	<ul style="list-style-type: none">○長文で、内容理解には教師の範読が必要なもの○専門的な用語が多く、教師の説明が必要なもの○他の考えと比較、検討しなければ考えを深めることが難しいもの	<ul style="list-style-type: none">○文章が短く、内容が安易なもの○写真や挿絵が多く、内容が理解しやすいもの○漫画風で、読みやすく内容が理解しやすいもの○詩やエッセイで、内容が理解しやすいもの 等

②**ワークプリント**・・・「教材を読んで終わり」にならないためにも必要。

③**家庭の支援**・・・発達段階や内容等によっては、必要な場合がある。

- 入学したばかりの1年生は、文字を読むことができないため、保護者が読んで聞かせ、問いかけ、考えを引き出す必要がある。ワークプリントへの書き込みも支援が必要となる。
- 低学年の場合、家庭支援が必要な場合が多いと考えられる。家庭の支援が難しい場合は、教科書の教材を理解できるよう内容を簡略化した補助教材が必要な場合がある。